

NEW GLASS FORUM の新たな展開に期待する

山村硝子株式会社 取締役社長

山村 武



1985年夏に NEW GLASS FORUM が発足してから既に 5 年の年月が経過しましたが、その間、FORUM としての成果は枚挙に暇がないように思われます。各種の調査研究、セミナや研究会、機関誌発行、データベースの構築などの活動を通じて、個々の企業の研究開発目標の設定に、その案内役として大きく貢献されるとともに、同業種・異業種間や官界・学界との交流の場としても、大変重要な役割を演じて来られたと思います。

また、関係各位の御努力によって、当初 70 社ほどの会員企業が今日では 170 社余りにまで拡大したことも特筆されねばなりません。これは、一つには NEW GLASS が如何に時代の要請にマッチした、今日風にいえば、トレンディな材料であるか、ということを表しているものと思われますが、今一つには、わが国的新素材研究開発指向のエネルギーが極めて大きいものであることを示しているように思われます。

このようなエネルギーに正しい方向を与える、研究開発のムダを止揚して効率を図ることは、やはり非常に重要なことであると思われます。そのためには、共同研究や研究協力の道を模索することも大切でしょう。例えば、昨年から次世代産業技術の研究開発テーマとして、FORUM 傘下の企業も加わって、『非線形光電子材料』が取り上げられましたが、これもその一つの解決方向を示すものといえます。今後、このような企てが、各企業のポテンシャルに応じて更に一層拡大波及することを望むものです。参加企業の溢れんばかりの研究開発意欲の交通整理役として、益々 NEW GLASS FORUM に期待が寄せられる所以です。

昨今、国際的な視野の必要性についてもよく論議されています。例えばアジアのガラス工業がいろんな意味でわが国への影響力を増していることは事実ですし、NEW GLASS FORUM に即していえば、昨年のヨーロッパ

におけるFORUM類似の組織の誕生も重視すべき出来事かと思われます。その中にあって、経済摩擦の形ではなく、やはりここでも『共生の道』が真剣に探索されねばなりません。

さて、現在のエレクトロニクス時代はガラスによって支えられているという人があります。家電メーカーが今懸命に進めている平面ディスプレイの開発をとってみても、様々なガラスが様々な場所で使われており、ガラスなくしてエレクトロニクスは語れない様子がよく分かります。更にこれからのお『オプト・エレクトロニクスの時代』を想定すれば、益々ガラスは必要不可欠な材料となるに違いありません。しかし、Old Glass の真中にある我々にとっては、そこに至る道筋に様々な高さのハードルやバリアが存在するよう感じられ、その解決方向を見出すのもなかなか容易ではありません。このような我々の蒙を啓く意味で、専門研究者の指導と援助、他の先端

技術分野からの問題提起などがぜひとも必要であると思われます。特にNEW GLASSの研究開発目標に対する経済的側面を含む様々な角度からの調査研究や、機関誌「NEW GLASS」による適切な論文・総説・解説記事の掲載などは、氾濫する情報を整理し、今後の方向を正しく予測する上で大いに役立つ企画であると思われます。

『ガラスに新しい輝きを』というFORUM発足当時のフレーズに因んで、NEW GLASS FORUMにも、更に新しい輝きを期待してやみません。